

情勢報告

露地花き「ヒメヒゴタイ」の生産者が先進地を視察研修



先進地を視察研修

9月29日、1ヶ月後の収穫に先立ち、室戸市佐喜浜地区の生産者(1名)が、先進地である安田町中山地区を視察研修した。

当地区では、平成21年度より試験栽培を始めたばかりで、まだ2年目と栽培経験が浅いため、「育苗方法や栽培管理で大事なことは?」「収穫～出荷までの手順をどうしているか?」などについて熱心に質問しており、意義ある視察研修となった。

今作は、JAとの定期巡回を通して、病虫害防除・灌水等の栽培指導をしてきたが、病気・高温等の影響による株の枯死が目立ち、厳しい年となっている。今後も関係機関と連携しながら、当地区でのヒメヒゴタイの定着・拡大を目指していく。

馬路小学校でナスの出前授業



10月4日に1～2年生9名を対象に食育の一環として、奈半利町のナス生産者「近森茂」氏と振興センター職員でナスの育て方について出前授業を行った。種まきから収穫まで実体験を元に分かりやすく説明を行ったところ、児童からは、「なぜ紫色なの?」など素朴な質問が出された。また、近森氏が生産した「土佐鷹」を生で試食し、「あまい」、「おいしい」や「ナスが好きになった」などの声が聞かれ、ナスへの興味が高まった。

最後に、県産地づくり課より、一人一人にナスのジュニア博士の認定証とナスが手渡され、記憶に残る授業となったと思われる。

JA吉良川支所ピーマン・シシトウ部会が現地検討会を開催



天敵への影響は?

10月6日、平成23園芸年度最初の現地検討会が開催され生産者8名全員が参加した。

全戸の圃場を巡回し、それぞれの圃場の着果状況や病虫害の発生程度、整枝方法などについて意見交換を行った。「着果不良の枝の整枝はどうしたらいい?」、「病害対策(黒枯病)はどうしているが?」などの話がだされ、皆で考えていた。

その後、場所をJA会議室に移し、振興センターから整枝方法、温度管理や病虫害対策等をJAからは新規登録農薬の指導や販売状況の説明を行った。

現地検討会は今作期間中、毎月1回の開催が計画されており、今後とも、高品質品が安定生産され消費者に提供されるよう、振興センターはJAや部会と連携し、計画的な活動ができるよう指導していく。

普及指導員と営農指導員が地区別の課題及び目標を共有化



10月7日に管内普及指導員と営農指導員35名で、JA土佐あきの営農指導員と地域ブロック別の活動実績や課題・対応策及び活動目標について目標設定シートを活用し、協議を行った。

これまでは、普及や農協それぞれが計画を立てそれを共有する形がほとんどであったが、平成20年度からは、同じテーブルにつき地域ブロック別に「いつまでに何をどうする」かについて協議し、目標を共有している。

今後は、作成した目標設定シートの内容を着実に実行していくよう互いが協力・役割分担を行い、産地の振興に向け取り組んで行く。

中芸地区野菜園芸研究会ナス部会現地検討会



誰んくのハウスへ行く？

10月12日、土佐鷹と天敵導入後の管理、初期の樹づくりをテーマにした現地検討会を開催した。今回は、参加者のハウスを回ってはどうかという生産者からの要望もあり、1カ所は従来の現地検討会どおりあらかじめ設定した天敵導入農家とし、他は参加者の中で希望者のハウスを巡回した。

土佐鷹、樹勢の見方や摘葉の仕方、天敵導入後の管理などのテーマごとにハウスを変えて説明することで、ハウスごとにテーマに特化した意見交換ができた。しかし、時間の制約があり希望ハウスをすべて回れなかった反省もあり、生産者から分科会にしてはどうかという現地検討会のあり方まで提言をいただき自主的な現地検討会ができた。

ポンカン加工品の販売拡大に意欲のあるグループが自ら事業計画書を作成



事業計画書の検討

10月12日、県主催の「農業創造人材セミナー」に参加している果樹加工グループ「甲浦の果樹仲間」(4名)が「活性化計画作成研修」(10月19日)に必要な申請書類を振興センター指導のもと作成した。

グループは、2年前から甲浦地区特産のポンカンを使用したドリンク(濃縮)とドレッシングを製造・販売し、事業拡大を目指している。

競合が厳しい柑橘加工品であるが、「柑橘加工販売による農家生活の向上と地域活性化」をテーマとしており、研修最後の「成果発表会」(11月)は勿論のこと、事業化できるよう振興センターは積極的に指導していく。

東洋町で果樹栽培相談を開催



果樹栽培相談風景

10月15日にJA土佐あき河内出荷場で果樹担当の普及指導員とJA営農指導員による果樹栽培相談を実施した。生産者が果樹の栽培について気軽に相談する場として、月一回開催しており、今回で4回目となる。

今回相談に来られた生産者には、害虫等による被害果実を持ってきた方が多く、その症状の原因と対策について指導を行った。

今年度からの新たな取り組みであるが、徐々に相談者が増えてきたことから、栽培相談日の周知がなされてきている。今後も継続して開催し、部会活動の活性化につながるような取り組みとしていきたい。

JA土佐あき柚子部北川支部ユズ目慣らし会



北川出荷場

10月18日、本格的なユズ収穫前目慣らし会を開催した。午前は南部地区を中心に北川出荷場で80名、午後は北部集会所で30名ほどが集まり例年になく農家の出席があった。JAから黄玉、酢玉の規格、出荷の注意点についての説明後、振興センターからは、昨年の反省から腐敗果を無くするように生産現場でできる対策についての留意事項と今年から始めるGAPチェックシートの取り組みの説明を行った。今年は、前半の天候が悪く、黒点病の発生が多いけれども出来るだけ撰別し、青果出荷をしていくよう取り組んでいくこととした。